

伝説「猿田彦命と天鈿女命の出会いと結婚」

(天つ神と国つ神の結婚)

(要旨)

日本神話において、舞で誘いだし、世界に再び陽をとり戻すのを助けた天鈿女命は、降臨の途中、天の八衢で出会った巨大国つ神の猿田彦命の元に、対面するように送られました。天鈿女命は、天つ神の子どもである瓊々杵尊が天孫降臨する際、お供をしていました。高千穂伝説によれば、猿田彦命が瓊々杵尊を無事に地上へ導くと、この二神は結婚しました。そうして、二神はくしふるの峰のそばに、住居を建てました。今日、荒立神社では、この二神を夫婦円満、そして所願成就の神として崇拝しています。

=====

降臨の旅

神道信仰の古い原点となる2冊の書、古事記と日本書紀の両方に記されています。瓊々杵尊が地上界を治めるために天降りする途中、瓊々杵尊と一行は、天の八衢に立つ、国つ神と出会いました。その神は高天原から葦原中国（英語では「日本」と表現）までを照らしていました。この光を見た瓊々杵尊は、天鈿女命に目を向けます。天鈿女命は、瓊々杵尊の祖母である天照大神が隠れた際、舞で誘いだし世界に陽を取り戻した神です。

国つ神との対面

瓊々杵尊は、天鈿女命に「あなたはか弱いではあるが、向き合った神に対して、気後れせずに圧倒できる神です。だから、あなたが行ってその神に向かって『天つ神御子の天降りする道に、出ているのは誰か』と尋ねなさい。」と言われます。瓊々杵尊の言葉に励まされ、天鈿女命は、その容姿の大きな神に向かって名を尋ねます。その神は、「私は国つ神で、名は猿田彦命と言います。私がおこにいる訳は、

天つ神の御子が天降って来られる、と聞きましたので、先導の役をしたいと思い、迎えに来ました。」と答えます。瓊々杵尊と一行は、猿田彦命の導きにより、無事にくしふるの峰に到着しました。

天つ神と国つ神の結婚

高千穂伝説によると、この天つ神、天鈿女命と国つ神、猿田彦命の出会いがかけがえのない巡り合わせでした。二神は、地上界に着くと、瓊々杵尊の祝福の元ですぐに結婚しました。そのため急いで周りにある荒木を集め、新居を建てました。現在の荒立神社は、名前を、切り出したばかりの荒木（日本語の『荒木』）で家を建てた（日本語の『建』）ことに由来し、二神とその結びつきを尊崇しています。

天鈿女命は、歌、舞、芸能の神として知られています。天鈿女命は神楽を通して、高千穂で深く崇拜されており、天鈿女命の舞から始まった神道舞踊が、神楽の起源といわれています。猿田彦命は、中でも交通安全、教育の神として知られています。これら二神によって縁結び、夫婦円満、所願成就、芸能のご利益があるとされています。